

会議・視察報告

第7回羅先国際商品展示会

ERINA 調査研究部主任研究員

三村光弘

2017年8月7日～10日、北朝鮮の羅先特別市先鋒地区で羅先国際商品展示会が開催された。今回の展示会には、合計91社・団体（以下、「社」とする）が出展（「中朝共同開発、共同管理羅先経済貿易地帯管理委員会」の展示ブースは1社とみなす）した。ブースに記された会社名を基準とすると、北朝鮮56社、中国27社、日本2社、ロシア1社、英国1社、米国1社、ドイツ1社、ドミニカ1社、不明（ブースはあっ

たが展示されておらず、会社名も掲示されていないブース）1社であった。また、屋外には羅先市でノックダウン生産されているサムテソン社の自動車の展示のほか、中国企業の自動車の展示もあった。

開会式の後、羅先市人民委員会（市役所）の幹部をはじめとする来賓が館内を見て回った後、一般の参観者が入場した。一般の来場者の数は、詳しく数えたわけではないが、今年の8割程度のように感

じた。1日目の午後には相当数の来場者が訪れ、館内は熱気に包まれた。

昨年と比較すると、北朝鮮の国内企業の出展が増え、中国企業の出展が減少した。北朝鮮企業を業態別に見ると、平壤の企業では健康食品や漢方薬を出展する企業が多く、地元羅先市の企業は水産加工品、衣服、食料品などが多かった。一般来場者は平壤を主とする国内企業の製品、特に健康食品や漢方薬（高麗薬）を求める傾向が強かった。羅先市関係者によると、国内企業が販売する製品は市場で買うよりも価格が若干安く、製造している企業が直接販売しているため、偽物の可能性もないということで、人気があるとのことであった。中国企業は小売がメインであるが、調理器具や食品の実演販売などが姿を消し、洗剤の廉価販売を行っていた会社も今年は参加していなかった。逆に、少々高価でも足のマッサージ器など、市場では販売していない商品はけっこう売れているようであった（館内で買ったばかりの大きな箱を持ち歩く来場者が多かった）。また、昨年は開会式に中国とロシアの駐清津総領事館からの参加があり、挨拶もあったが、今年は中国の参加はなかった。

第7回羅先国際商品展示会の会場



(出所)筆者撮影